

## 第1分科会 コメント一覧

### テーマ：河川改修事業等（河道掘削等）における工夫事例

No.	発表題名	コメント	コメント	コメント	総評
1	網走川における川の営力を活かした川づくり	過年度の施工の結果や学識者の意見を踏まえ、試験施工に取り組みなど、丁寧な分析により取り組まれている点が評価できる。今後のモニタリング結果について十分な分析の上、本施工を実施いただきたい。	毎年確実に発生する融雪出水流量から無次元掃流力によるレキの移動判定を行い、維持可能な河道幅を設定することで、河床低下対策、樹林化抑制の双方の実現可能性が伺えた。今後のモニタリング結果に期待。	川の営力による礫の堆積状況を事前に想定するだけでなく、計画の妥当性を検証する目安を設定し、モニタリングしている点は評価できる。サケ・マスの産卵状況も併せて報告されるとより良かったと思う。	流下能力不足に対する河積確保をしながら、河床環境の回復もはかろうとする取り組みの好事例。土砂は今後も動くのでぜひとも経過観察を続けてほしい。
2	江戸川 玉葉橋付近の河道掘削について ～江戸川内の自然遷移と人為的改変～	同一河川の多数の掘削事例及び継続的なモニタリングから、湿地環境やワンドの整備に関する知見をまとめており、参考となる事例である。今後、掃流力や再堆積量とその変化速度等、定量的な分析にも期待したい。	自然攪乱が起こりづらい江戸川において人工的な攪乱により多様な自然環境を創出することで生物の多様性を確保する取り組みについて、工種別の効果、環境が維持される期間などを統計的に処理されるとより、その効果を定量的に評価出来るのではないかと？	大河川下流部の複断面河道で変化する環境を丁寧にモニタリングし、原因分析の上、多様な手法の試行をしていることは評価できる。自然の営力の活用や課題を踏まえた改善策も報告されるとより良かったと思う。	経年変化も把握した上で、定期的な高水敷切り下げによって湿地再生を図ろうとするワークフローとしてかなり熟度が高い。掘削形状についても工夫を重ねており、物理環境と生物のモニタリングを続けてほしい。
3	希少魚類ミズハゼ類の保全を目的とした工事施工時における工夫事例	行政のみでなく、JRや電力会社や砂利組合も含めた連携の枠組みを構築しており、実効性を持って施工業者により取り組まれている点が他の参考となる。この取組本来の目的である、希少魚種への効果も検討しつつ、継続した取り組みに期待したい。	地域固有の希少種であるミズハゼ類の保全に関わり、伏流水が湧出する砂礫の深所(深さ約20～100cm)に生息する特性も踏まえ環境DNA調査により工事の配慮の効果を確かめる工夫がなされていた。	河口部の希少生物の環境を保全するため、改変を行う際の検討手続きが、有識者や地元関係者との間で体系立てられ、これまでの知見も蓄積されていることは評価できる。	ナガレミズハゼという特殊な生物に着目した配慮を施工業者も含めて丁寧にやった事例。その他の生物種への配慮はどうなのか気になった。
4	千曲川中流域における自然再生事業とモニタリング計画の検討	丁寧なモニタリングが実際されており、河道の応答や植生繁殖状況等を分析の上、モニタリングの継続要否を判断している点が評価できる。	レキ河原再生、ヨシ・ヤナギなどの千曲川らしい水際環境の再生を目指し①～③の各箇所で対策が実施されていた。所毎の河川の物理環境も踏まえた環境の変遷、効果分析が出来るとさらに展開が図れるのではないかと？	モニタリングの目的を踏まえ、モニタリング継続の判断基準や施工中のモニタリングの必要性などを検討されている点は評価できる。出水後、施工後のそれぞれのモニタリング結果の違いや施工中モニタリングの結果を今後の管理に活用されることを期待する。	自然営力による河道内樹林の流失まで見越した計画と順応的管理がなされている先行事例。モニタリングの結果が、写真でごく簡単に説明されていたが、より詳細なモニタリング結果が知りたい。ヤナギやハリエンジュは遠目に見て目立たなくても成長速度が早く油断は禁物。
5	豊川流域におけるネコギギ保全のための環境改善および地域保全の取り組み	ネコギギの保全のために、十分な分析の元、様々な対策を実施し、その効果を定量的に把握し、更なる対策に繋げている点が評価でき、他の参考となる事例である。	ネコギギの生息環境を分析したうえで場の創出と、持続的な環境の保全のための人材育成を組み合わせた興味深い事例であった。	生息環境を技術的に検討の上、場の創出を行い、生物種のモニタリングにより、その仮説が正しいことを検証されている好事例といえる。また、自然の営力の活用や環境学習の材料とすることで地域連携も見据えている点も評価できる。	設楽ダム建設事業において課題となっていたネコギギの保全について取り組まれてきた実践の報告。ネコギギの生態、生活史を丁寧に把握した上で、自然共生研究センターなどの基礎研究も活かして、瀬淵スケール・河床環境スケールでの生息場形成の技術につなげた息の長い総合的な仕事。地域への普及啓発活動も素晴らしい。環境保全措置としてどれくらいの箇所数で実施していけば良いのかは不明。
6	一級河川日野川水系野上川での河川整備における工夫	背後地による制約条件と特別天然記念物のオオサンショウウオという難しい条件下での河道改修として、参考となる事例である。	地域の生業への配慮と、限られたヤードの中での環境への配慮を組み合わせた事例であり、中小河川における取り組みとして水平展開が期待される。	河川環境や周辺の制約条件などを整理した上で、当該箇所での多自然川づくりとしての目指すべき姿を検討している点は評価できる。課題も分析されているため、今後の改善に期待したい。	オオサンショウウオへの配慮は感じられるが、護岸の明度・テクスチャー、河岸の粗度の確保、河床環境など、まだ改善の余地はありそう。結構急勾配なので、本来の川の姿がどうだったのか気になっています。（露岩河床だったのか）
7	物部川における段階的な高水敷整備について	礫床河川に共通する問題について、現状の課題をしっかりと抽出して、工夫を凝らした対策を実施している点は、他の参考となる事例である。	現場発生材料を用い、瀬淵環境の創出を行う工夫がされており、今後、出水時に河岸浸食が発生しないかなど、河川管理施設との効果検証もしっかりとモニタリングして欲しい。	河口部に保全すべき河川環境があることを踏まえ、環境の改変をおさえて自然の営力の活用を期待するとともに、下流への土砂供給が少ない流域全体の土砂移動の状況も踏まえ、改変を加える部分には上流の河床材料を活用し、多様な自然環境の創出を行っている好事例。今後、モニタリングデータの結果も踏まえ、順応的管理が行われることを期待する。	高水敷を水制で防御しながら低水路の河川地形・河床環境にも好ましい影響を与えようとする方向性は、治水と環境の調和、自然の営力の活用という観点でも高く評価されるべき好事例。